

研究の概要

I 研究について

1. はじめに

ここ数年、本校教育課程の改訂を進める中で、教務部を中心として学習の連続性や発展性を検証し、研究部、自立活動部がそれぞれ、授業改善、校内支援（療育に関する助言、支援機器の活用促進等）を担当し、本校教育内容の改善と充実に向けて取り組んできたところである。

そして、今年度より研究部と自立活動部を統合する形で、新分掌として教育企画部が組織した。教育課程改訂に伴う様々な取り組みについて更に効率化を図り、その取り組みを一層加速させようというものである。その方策のひとつとして広島県立福山特別支援学校が作成している「アセスメントチェックリスト」を導入し、児童生徒の実態を的確に捉えるところから授業改善への意識を一層高めようと考えた。

各学部において授業研究を通し、実態把握から課題設定に至るまでの流れ、実際の授業における工夫や改善点の共有を図った。また、福山特別支援学校より指導助言者を招き、授業改善のための視点や題材設定など多岐にわたる助言を受け、その後の授業実践に活かせるよう取り組みを進めた。

「アセスメントチェックリスト」導入による的確な実態把握は、その後の課題整理を含め、授業改善の取り組みであると同時に教員の専門性向上につながる取り組みであると考えている。

以下にその取り組みの詳細と、成果・課題について記載する。

2. 研究テーマ

「的確な実態把握に基づいた自立活動の授業づくり～アセスメントチェックリストの活用～」

3. 研究テーマについて

(1) 設定理由

本校の教育目標「自立と社会参加に向け、児童・生徒一人ひとりの障がいの実態を的確に把握し、学力の基礎・基本と社会性を身につけさせ、社会に参画する意欲と豊かな心を育てるため、常により良い学校をめざし、全教職員で力を合わせて教育活動を推進する。」を基調とし、中でも児童生徒の障がい（つまずき）の「実態を的確に把握」することを最重点課題として今年度の研究テーマを設定した。

「実態⇒ねらい⇒手立て」の順序をふまえ、一貫性のある授業を展開することの重要性は、これまでも様々な場で述べられてきたことである。「実態把握」は授業づくりの土台であり、後に展開される「ねらい」「手立て」の根拠となる。しかしながら、在籍する児童生徒の大半が重度重複障害である本校の現状を見た場合、「実態把握」についての客観的な指標が得がたく、また個々の教員のスキルや経験値によっても児童生徒の「実態」像にズレが生じることは避けがたい。そこで、「実態」についての客観的な指標となりえる「アセスメントチェックリスト」を導入することで、関わる教員全てが、児童生徒の「実態」像を共有し、「実態⇒ねらい⇒手立て」の一貫性ある授業実践、児童生徒の実態に即した指導をめざす。

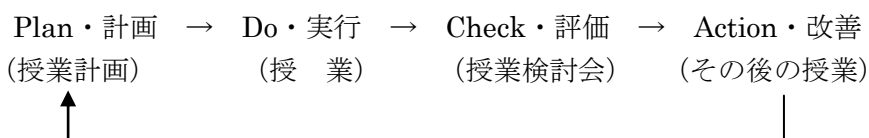
(2) 対象の授業と児童生徒

「自立活動の授業づくり」を本年度のテーマとして設定していることから、自立活動を主とする教育課程に属する児童生徒の個別指導の学習場面（授業）を対象とする。

※「アセスメントチェックリスト」が重度重複障害児を対象として作成されたものであること、自立活動の指導の基本が「個別指導」にあることを勘案し、本「アセスメントチェックリスト」活用の効果が最も得られる（実感される）と考えられる。

4. 研究の進め方

- (1) 研究授業とその後の授業検討会をまとめて「授業研究」とする。
- (2) 全教員が研究テーマを念頭に、日々の授業実践を行う。(※「アセスメントチェックリスト」の積極的な活用を推進する。)
- (3) 各学部で授業者を選出し、当該学年(又は当該クラス)の教員と協働して児童生徒の実態把握、指導案の作成を進める。
- (4) 広島県立福山特別支援学校指導教諭 川口辰之進先生を招聘し「アセスメントチェックリスト」についての研修会を平成29年7月21(金)に実施。(チェックリストの背景や活用方法について共通理解を図り、授業改善に対する考えを深める。)
- (5) 研究授業を平成29年10月に実施。(各学部1授業)
助言者として、広島県立福山特別支援学校指導教諭 川口辰之進先生を招聘、放課後 授業者を中心に反省会(指導助言)を実施。
- (6) 研究授業の様子は実施した日から数日間放課後にビデオ上映し、参観できなかった教員にも見ってもらう。
- (7) 各学部で授業検討会を実施する。
- (8) 授業評価シートを参観者に記入してもらい、授業検討会での資料とする。検討会後は、教育企画部で回収保管する。授業者は、記載された内容をその後の授業に活かし指導の改善に努める。
- (9) PDCAサイクルを活用し、授業改善をめざす。



- (10) 平成30年2月に「授業研究まとめの会」を持ち、1年間の取り組みの成果を報告する。
- (11) 「アセスメントチェックリスト」の校内での活用推進を図るために、「研究授業」とは別に、授業の「実践報告会」を企画する。「アセスメントチェックリスト」活用による授業改善の取り組み(授業の目標設定についての見直しや、それに伴う教材教具、授業展開の工夫等)についてポスター発表形式で紹介し、授業実践を広く共有する。

5. 授業研究 について

(1) 授業研究概要

日 時 : 平成29年10月24日(火) 10:00~17:00

指導助言 : 広島県立福山特別支援学校 川口辰之進 先生

授業内容

学 部	小学部	中学部	高等部
教科・領域	自立活動		
題 材 名	よく見てよく聞いて自分の好きなことを選ぼう	かんかくあそびをしよう	・物に合わせて手を使おう ・場面の变化に気付こう
学 年・学習グループ	1年生	2年生	C2グループ(2年生)
授 業 者	道端 万裕子	吉田 亜未	猪谷 枝璃
授 業 検 討 会	10月27日(金)	11月7日(火)	10月27日(金)
報 告 会	平成30年2月16日(金) 授業者によるまとめの報告		

6. 成果・課題

「的確な実態把握に基づいた自立活動の授業づくり～アセスメントチェックリストの活用～」というテーマのもと今年度の研究を進めてきたわけであるが、学校教育診断における教員アンケートの「児童生徒の実態把握にアセスメントチェックリストが効果をあげている」「授業研究に対する取り組みが授業改善に効果をあげている」という2項目について70～80%の肯定的評価を得ていることから、多くの教員が、「アセスメントチェックリスト」を活用した授業づくりの有用性を実感していることが窺える。

これまでも児童生徒の実態把握については、プロフィール表を活用する等して教員間での共通理解に努めてきたところであるが、「アセスメントチェックリスト」を活用することで、児童生徒の実態把握について一層共通言語化が進むと考えている。教員間での「実態」の捉えにズレが生じない（生じにくい）ということは、授業での「指導」のズレが生じないことにもつながる。児童生徒たちがどの部分でその力を伸ばしたのか、「アセスメントチェックリスト」によりその軌跡をたどれば、ひいては本校の学習の連続性や発展性を検証するひとつの指標ともなりうる。

「アセスメントチェックリスト」による実態把握と「課題整理シート」による具体的な指導目標の設定の流れは、自立活動の中心課題設定の流れと同等のものであることから、自立活動の指導とはどのようなものであるのかを改めて考える機会となった。「自立活動の時間の指導」時に中心課題についての取り組みがなされるのは当然のことであるが、「教育活動全体を通じた指導」の場面においても中心課題は意識されなければならない。授業1時間あるいは単元の中でどのような目標を設定し達成したかを問うことも重要であるが、ともすれば題材を中心に課題が設定される事態も起こりうる。中心課題に対してどのように取り組むかを検討する中で題材の選択が行われるべきであり、このことへの意識が「課題整理シート」による具体的な指導目標設定の流れの中で高められることを期待している。

校内での共通言語として「アセスメントチェックリスト」の活用を更に推進していくことが必要であるが、同時に教員の専門性向上を図っていくことも不可欠である。「アセスメントチェックリスト」の有用性は先にも述べた通りであるが、児童生徒の実態全てを網羅するものではない。またリスト中のそれぞれの項目についても児童生徒個々の状態に合わせて読み替える工夫が必要となる。更には「課題整理シート」から具体的な指導目標を設定することの難しさもある。児童生徒の認知発達に対する知識、理解が「アセスメントチェックリスト」の有用性を更に高めることにつながる。授業研究での事例を参考にそれぞれの教員が自身の授業を振り返り改善していく中で、児童生徒を見る力を高めていくこと、そのことにつながる研修の充実がもとめられる。

指導助言者より「子どもたち個々の（自立活動の）指導内容は個別の支援計画、指導計画に基づいて設定される。言い換えれば、それらが教科の指導要領と同じ意味をもつものである。」との助言をうけた。的確な実態把握がなければ、その後の指導も根拠のないものになってしまう。児童生徒の実態を理解し共有することがいかに重要であるかを改めて実感する機会となった。「アセスメントチェックリスト」という共通の尺度を得たことで、中心課題をどのように指導していくのか、指導に対する根拠がこれまで以上に明確に意識されるようになったのではないかと考えている。

今後もさらに「アセスメントチェックリスト」を活用しながら、的確な実態把握とそれに基づいた適切な指導が実践されるよう、教員個々の専門性向上のための研修や研究テーマの設定に努めていくとともに、本校全体の学びをどのようにデザインしていくのかを教務部とも連携しながら、児童生徒の学びがより充実したものとなるよう検討を進めていく。

授業評価シート（授業者・参観者）

記入者名（ ）

研究 授 業	学部（ 小 中 高 ）	学年・グループ（ ）
	教科（ ）	授業日時（平成29年 月 日 : ~ : ）
	題材名（ ）	指導者（ ）
	担任団・授業担当（ ）	

チェック項目		
1	授業は、学習指導案に基づいて指導されていましたか。（目標、学習過程など） 記述欄	◎ ○ △
2	指導案の指導目標は、教科や自立活動の領域の目標に基づいて設定されていたか。 記述欄	◎ ○ △
3	児童・生徒は、本時の目標を達成できていましたか。 記述欄	◎ ○ △
4	わかりやすいことばかけ、適切な教材教具など児童・生徒の実態に合わせ、個別に配慮した指導がされていましたか。 記述欄	◎ ○ △
5	児童・生徒は、主体的に（興味関心・自己選択・自己決定など）活動していましたか。 記述欄	◎ ○ △
6	集団の授業においてSTは、MTの指示や説明に連携して指導していましたか。 記述欄	◎ ○ △
自由記述欄（授業改善に向けてヒントになること等）		

◎よくできている ○できている △改善工夫が必要である

MT－授業主担者、ST－授業サブ担当者